

食べる楽しみを持ち続ける口内炎のケア&食事

東邦大学医療センター大森病院

口腔外科 部長

栄養部 主任 管理栄養士 がんセンター がん口腔機能管理部長

中村 芽以子先生

関谷 秀樹先生



口内炎を起こしやすい薬と発症時期

口内炎を起こしやすい抗がん剤の例

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> プラチナ製剤
(シスプラチン、カルボプラチンなど) | <input checked="" type="checkbox"/> タキサン系の抗がん剤
(ドセタキセル、パクリタキセルなど) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 分子標的薬(ペバシズマブなど) | <input checked="" type="checkbox"/> フッ化ピリミジン製剤(S-1など) |

上記のほかにも口内炎を起こすものがあります。同じ薬を使っても口内炎ができない方もいます。口内炎のひどさ(炎症度)も治療により、個人により異なります。

抗がん剤の投与が始まって数日で口の粘膜が赤くなり、酸味や塩味がしみるようになります。1週間ほどで炎症やびらんが起き、2週間ほどで潰瘍ができると痛みはピークに達し、ひどい場合は口から食事がとりにくくなります。潰瘍ができるころに、抗がん剤の作用で免疫機能が低下する(骨髄抑制)時期が重なると、潰瘍から口の中の細菌が入り込み、全身の感染症を起こすこともあります。

